

2015 年 9 月発行

COMMONS は、社会のために何かしたい人、NPO という道具を活かしたい人を応援することで、組織の壁・心の壁を越えて、人がつながり共に行動する市民社会の実現を目指します。

常総市で数十年に一度の大水害発生

このたびの関東・東北地方を襲った大雨により、茨城県内でも常総地域を中心に大きな被害が出ております。常総市水海道にあるコモンズ常総事務所（ビル 1 階部分に設置）も、9 月 13 日になりやっと入れる状態になりましたが、事務所に備えていたものや書類の多くは廃棄せざるをえません。また、同地域に住む代表理事の横田が被災しました（自宅は床下浸水）。この間、コモンズのホームページで、横田が常総市水海道森下町付近の状況を報告してきましたが、今回改めて情報誌号外というかたちでお伝えします。

発災直後より、多くの皆様からご心配と、励ましのご連絡をいただきました。コモンズ役職員一同、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後、様々な市民活動が必要となってきます。泥かき・片づけ・清掃ボランティア、被災された方の心によりそうボランティア、まちや支援活動の様子をレポートしていく広報ボランティア、まちを元気にするイベント・ボランティアなどなど……。特に、コモンズはこれまで常総市に多く在住するブラジル人やフィリピン人など、外国人の子どもたちの教育環境整備に力を入れてきましたので、子どもたちや学校のサポートと、外国の方と地域の人をつなげる支援活動に力を入れていきます。また、現在のところ支援が手薄な、横田の地元の水海道地域の支援活動に重点を置くことになります。

全国からも、これまでつながりのある様々な市民や団体が応援に駆けつけてくれています。また、水が引けば、今後ボランティアを希望される方もどんどん増えていくことと思います。これらの応援を力に変えつつ、事務所体制を再度整え、地域の住民が主体となって常総市をもう一度住みやすいまちにすること、新たな市民活動の動きが生まれるよう、NPO 支援につなげていきます。また、通常のコモンズの活動への影響が最小限になるように努めます。

5 ページに掲載されているように、このプロジェクトを応援する募金を開始しました。この危機をチャンスに変え、コモンズのミッションにある「組織の壁・心の壁を越えて、人がつながり共に行動する市民社会」を実現するきっかけになればと思います。NPO のみなさんも、被災者のニーズ情報を随時発信していきますので、何ができるか、一緒に考えていきましょう。応援、よろしくお願いします。

※ 市内の状況は日々刻々と変化しています。水もだいぶ引き、車も通れるところも徐々にではありますが増えています。ここに掲載されたは、あくまでその時点での情報です。



発行：認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ

(本部)

〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目 1 番 39 号

茨城県労働福祉会館 2 階

☎：029-300-4321 FAX：029-300-4320

e メール：info@npocommons.org ウェブサイト：www.npocommons.org

(大工町事務所)

〒310-0031

茨城県水戸市大工町 1-2-3 トモスミとビル 4 階 C1

☎：029-291-8990 FAX：029-291-8991

ツイッター：@NPO_Commons

その①(2015年9月10日(木)午後8時)

コモンズの横田です。自宅のある常総市は鬼怒川沿いなので、「いつかこういうことが」と思っていたことが、現実になりました。NHK などが常総市内に入っていないようなので(車が一部入れなくなっています)、中からの情報を発信します。

まず見取り図をつくりました。常総市は北部の旧石下町と南部の水海道市が合併した 6 万くらいの市で、西部に鬼怒川、東部に小貝川が南北に流れ、その間は田畑が広がっています。川に沿って道路や鉄道もあります。今はいずれも一部しか通れないのではと思います。

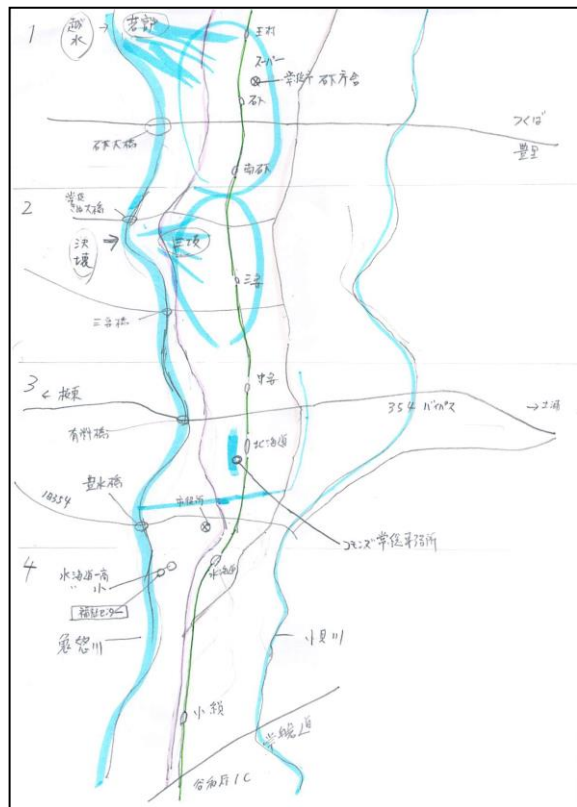
私は北水海道駅の近くの自宅にいます。まだ家のまわりに水は来ていませんが、歩いて 1 分のコモンズの常総事務所付近の道路は、下水から水が溢れ、膝くらい浸水しています。

水海道地区の公共施設は高いところになく、水海道小、水海道一高と、その隣の報国寺が避難所ですが、収容人数も少なく、石下地区で自力で逃げられた人は東のつくばの豊里の JA の避難者か、北の方に行ったのではと思います。

水海道小の近くの福祉センターに社協があり、そこの皆さんが、これからボランティア・センター立ち上げに動くと思われます。これから様子を見てきます。

不安な点

- 社協や避難所があるところはやや高台ですが鬼怒川には近く、もし今回決壊したところの南でも決壊や越水があると、陸の孤島になる可能性はあります。私のところもそうですが。
- 移動に関してですが、今のところ、水海道から南への車は流れていそうですが、北(中妻、石下)には行けそうにありません。土浦と坂東をつなぐ国道 354 が東西をつなぐ動脈ですが、ここが動かないと孤立します。
- 三つめの不安は、東部を流れる小貝川です。こちらはまだ橋を通行できるのですが、後で水かさが増し、29 年前の大雨も鬼怒川ではなく、小貝川が常総より下流で氾濫しています。明日、小貝川の橋が通行止めになると、東のつく



ば方面から入れなくなります。せめて常磐道の谷和原 IC と水海道の間だけでも道路が通れば、常磐道を使った行き来ができると思います。

- 常総市はブラジル人の方が多く、水海道小も 500 名の児童のうち 1 割以上はブラジルの子どもたちです。体育館にもだいぶ避難していますが、まだまだ水海道地区の多くの人(日本人も)は自宅にいます。店はどこもやっていません。17 時から断水していますが、電気は使えます。急に水が増えたときにどうなるか、みな行き場をなくすのではないかと心配です。

いろいろご心配の連絡、ありがとうございます。現状をお伝えします。

その②(2015年9月11日(金)午前2時)

多くの方に心配、励ましのメールをいただき、ありがとうございます。常総市の水海道地区にいる横田の現状です。

その①でお知らせしたように、常総市は南北に長く、西の鬼怒川と東の小貝川に挟まれた平地です。昨日朝に石下の北で、鬼怒川の右岸より水が堤防を越え、午後 1 時頃に石下と水海道の中間にある三坂というところで、突如堤防が決壊しました。それらの水がまず石下地区の鬼怒川から市街地を経て、294 バイパスのあたりまで広がっていると思います。

石下の市街地の市役所石下庁舎や福祉センターは 1 階建てなので、かなり水が入ったと思います。石下庁舎の近くに交流センターがあり、そこに石下周辺の人は多く避難しているようです。ラジオの情報では、濡れたまま来て、電気はあるようですが、食料が課題になっているようです。テレビに大きなデパートの屋上が出ていたと思いますが、石下の APITA というデパートで、そこの 1 階が一時水に浸かったようです。

私は石下から徐々に南の水海道地区に水が来ると考え、いろいろ買ったりしていたら、急に家のそばの地区で下水管から水が溢れだし、膝ぐらいになりました。コモンズ常総事務所の

周りもその状態です。

夕方、家族の避難先の避難所も確認しましたが、水海道地区の避難所は既に混んでおり、妻の父母のことも考え、自宅に留まることにしました。水海道の森下町地区には、そう判断した人が多いと思います。午後 8 時くらいに避難所や市役所の方に行こうとしたら、急に増水し引き返しました。鬼怒川からではなく、鬼怒川と小貝川を結ぶ「八間堀川(はちけんぼりがわ)」が溢れたらしく、北ではなく南側から水が迫ってきました。

今、家の周りの道路も膝からももくらいの水がたまっています(どちらにも流れていません)。結果として、水海道森下町、橋本町、相野谷町などは中妻、石下と水でつながったと思います。八間堀川の南側に水海道駅や市役所がありますが、そこらも浸水しているようです。かなりの人が森下地区に取り残されたままになっています。

鬼怒川から東は午後 5 時から全域で断水。午後 10 時くらいだったと思いますが、突然停電になりました。信号はついていますが(こういうときはボードがあると良いと思いました)。

個人的には、家の床ギリギリのところまで水が来ているので、2時間くらい浸水対応に追われました。備えはそれなりに役に立ちました。

水海道地区は鬼怒川沿いですが、高い場所にある水海道小、水海道一高等3か所に避難所があります。そのすぐ近くにある福祉センター（社協が入っています）にも、夜になって自衛隊などに救助された方がたくさん入り、100名くらいになって3階建ての各部屋が一杯とのことでした。

社協のある避難所で必要なのは、下着です。相野谷地区（北水海道駅の東側）の人は上記の急な増水に合い、1階で胸くらいまで水に浸かった人もいます。皆びしょびしょで避難しているので、下着が欲しいそうです。毛布も足りない。水があるそうですが、食料が夕方おにぎりしか届けられたばかりは何かなく、食に困っているようです。具合が悪い方も少なからず

いるので、医療スタッフも必要ようです。

近くにある小学校などは、濡れた人は少ないと思いますが、食料などは不足していると思います（夕方、南から車があまり入っていないので）。

また水海道には、大きい病院としてきぬ医師会病院と水海道さくら病院があり、きぬ医師会病院は八間堀川の脇にあるので、恐らく1階には水が入ったのではないかと思います。森下町の住宅街にある水海道さくら病院も1階は水が入り、入院患者の方が上の階に避難しているようです。

1日目の報告はこれまでとします。私にできることは、現地の情報収集と発信かと思うので、支援に関して必要な情報などありましたら、eメールをください。では、ありがとうございました。

その③(2015年9月11日(金)午前7時)

茨城 NPO センター commons の横田です。下記情報はそれぞれの時点で、常総市水海道森下町にいます中で聞いたり、考えたり、想定したことです。正確性では欠けるかもしれませんが、現地の状況を知りたい方にお伝えいただければありがたいです。

=====
茨城 NPO センター・commons の横田です。2日目の朝です。4時半に防災放送で救援活動のため、4時半から市内の鬼怒川東が停電になる、とのこと。水海道森下町は昨夜10時から停電が続いています。昨夜もボートが行き来していたので、救援は行われていた様子。今朝5時半、ヘリの音が聞こえます。

今6時45分、防災無線で「市役所が停電し、電話がつかない」とのこと。

家の周囲は、5時間前とそれほど水かさは変わらず。少し下がったようで、我が家の床上浸水はギリギリで防げました。これで仕事に打ち込めます。

ただ、職場の車が動くかどうかはわかりません。プリウスでタイヤ半分が埋まっている状況です。このままエンジンをかけて良いものか、わかる方がいたら教えてほしいです（これがだめでも、10人乗りワゴン車が生きていれば使えます）。

常総は高い場所が本当になく、水海道地区の人は、逃げる時間はありましたが、みな車をどうするかで躊躇したと思います。私も守谷とか、つくばに家族を連れだすことも考えましたが、市外に出ると車両規制で戻れなくなると思い、とどまりました。その結果、正に孤島状態になりました。物置にあるボンベ式発電機が、屋上ソーラーの電力が使えれば外には出られませんが、たいしていいことはできると信じて。

ラジオで確認しましたが、石下の交流センター（ホール）に1,000人くらい避難しているようですが、孤立しているようです。水海道小など同地区の4つの避難所に合計1,000人いるかもしれません。

テレビでも常総市の避難所のことは出てこないし、無線でも、避難所追加の放送はありましたが、今どこが空いているかわかる情報が得られませんでした。我が家の指定場所と思っていた水海道二高に行ったら、「ここは避難所ではありません、一高へ」の張り紙のみ。鬼怒川に近いからなのか、ここが使えたら森下町や橋本町の人は来たと思いますが、仕方がないです。2階が丈夫ならヘリで、ほとんど物資がなく狭い避難所に行くよりは、家にまだとどまっていた方が良いのかもしれませんが、判断が難しいです。



常総市のホームページに防災放送などで流れた、いつどこが避難所になったかは時系列で出ていましたが、今そこに何人いるのか、高齢者が行けるところか、何もわかりません。

市役所の下記WEBに出ている交通規制は外からくる方には役に立つかもしれませんが。

<http://www.city.joso.lg.jp/kinkyu/1441901720554.html>

ただ、うちの近くの有料橋と豊水橋の間も冠水しているので、冠水場所は要注意です。車で深みにはまると大変なので、車で近づく場合は、目的地まで通れるか確認してからでないと行けないと思います。近くの保健センターの駐車場に、ヘリが来ているようです。

まず、陸路以外で交流センター、水海道小学校、水海道一高、報国寺、社協のある福祉センターに食料、毛布、下着、タオルなどが届いてほしい（これは私の推測です）。市役所も含め川の東にある避難所はみな孤立し、停電だとも厳しい状況だと思います。

次が病院や福祉施設に留まっている方のところ、家に残っていて動けない人のところには、ボートが何かに載せて配れるとニーズも掴みやすいかと思います（道路の水かさがどれくらいになったら動けば良いか考え中です。このあたりは水の流れはありません）。

推測ですが、石下地区はかなりの人が避難か救助されたと思います。水海道は、大丈夫だろうと思っていた人が、夜の八間堀川からの増水で自宅から動けなくなっている人がかなりいると思います。

これからどうするか、です。

その④(2015年9月11日(金)午後10時)

今日は横田が、常総市水海道森下町で1日したこと、考えたことを記します。

朝4時半の防災放送で起きる。窓枠の下とギリギリだった水位が少し減った。我が家はなんとか床上浸水を免れた。一日目、水が来ると思い、土嚢やシートを用意したことが良かった。トイレに防災用トイレのシートも設置(買って置いて良かった)。水槽の魚たちも無事、酸素もまだ持つ。

「道路の水が深く、車が動かないので」と、車を置き去りにし、急に泊めてほしいと来られた方と、一晚運命を共にした。彼のおかげで、玄関のブルーシート・バリケードもできたし、こちらも心強かった。その方が、職場である近くの病院に戻ることで、食料や少しの着替えと杖のような棒を渡し、通りまで見送る。その後、ボートに乗って無事に着いたとの電話で安堵。私が昨日の午前に診察を受けたその病院の1階上まで、今は水に浸かっている。

震災の時の停電の恐怖から衝動買いしたガスボンベ発電機を物置から取り出すが、水に濡れ、今日は動かせず。これが使えたら、夜でもどこでも、電気充電ができる(避難所とか、あちこちで携帯の充電に困っているだろう。発電鍋を買っておけばこういうときに役に立てたのに)。

隣の妻の実家は床上まで泥をかぶったが、朝には水が引いたので、早速父は床掃除。うちの方はソーラーパネル発電が動くか試すが、エラー。電話で操作を確認したら動いた。動いたぞ。屋間は電気が使え。これは心強い。

とにかく今日は真上に複数のヘリがいる。このあたりに取り残された人を早く運ぼうとしてくれているのだろう。それを無視するように家にいる罪悪感、なかなか水が引きそうにない中で、水が引かない可能性を考え、もう避難しましょうと親に話すとわかってくれた。ヘリを呼ぼうとしていたらボートが来たので、妻の両親と妻と娘を託す。

さて、意を決して、普段は徒歩1分のコモンズ常総事務所を見るため、水の中をゆっくり進む。しかし、ここはまだ道が深く、胸まで水が浸かりそうだった。今日はここまで、と引き返す。ドアの半分が水に浸かっているということは、かなり水が入っていきそう。事務所に置いてある、外国人児童生徒のための教材が心配だ。昨日の屋に、もっと上に上げておけば良かったと後悔。誰もいない海のような町、青空に無数のヘリ。異様な光景だったが、この光景を残さないといけないと思い写真を撮る。

一人になると、不思議な気持ちになる。自らの意思で留まっているのに、取り残されたような気持ち。そんなときは、カセットコンロでお湯を沸かして焼きそば。食糧はある。

避難所にいる人も、家に残っている人も、すごく不自由をしている。家が傷んだり、なくしたりしている人も多い。自分の場合、町では高いところに家があったのと、震災グッズは一通り用意していたので、普通に近い生活はできる。それも災害時に家族を守りつつ、災害に関する仕事もできるように、と準備してきたからだ。この環境にいて仕事ができるのだから、すべきことをやらねばと思う。たくさんいただいたeメールを読んだり、電話を受けたり、かけたり。

社会福祉協議会に、県外からも複数の災害ボランティアのエキスパートが入り、災害ボランティア・センター設立準備が進んでいる。何をどれくらい、どのルートで届けてもらうか、



一部について調整するが、民間は決まるのが早い。

水の量の変化、道路や橋の状況を見ながら、今後、人がボランティア・センターや活動現場に安全に入れるようにするのが今後の課題か。他にもいくつも支援に関するご相談がある。何かしたいという想いと、現場を結びつけなければ、と考えても、どうも頭があまり働かない。でも少なくとも、次のことは少し見えてきた。

水が引き始め、避難所から自宅に戻りだそうとしている石下地区の一部で、近々ボランティアが必要になるので、その受け入れ態勢づくりが急務だ。電気もなく、食事も毛布も足りない街中の避難所が気になるが、今日も行けなかった。明日こそは。水海道は避難所に入らないでいた多くの人が自宅にいたはずで、昨晚急に水に囲まれ、動けなくなっていた。今日のボートなどでの救援で市外や鬼怒川の西にある避難所に行った人は、その方が良かっただろう。うちの家族も、親戚のところに行けて安心した。

家に留まっている人は、トイレの処理で困っているはずだ。そう思って支援物資のリストに加えてもらった。これをなんとか届けたい。

そうこうしているうちに、あっという間に夕方。外を見ると、片方の道はだいぶ水が引いているが、低いところはまだ深い。明日、車で動けたら良いが。ラジオによると、水が低いところに今後も流れるとのこと。そこがどこか、見極めたい。

さすがに昨日あまり寝ていないので今日は早く寝よう。昨日と違い、本当に静かだ。

その⑤(2015年9月12日(土)午前7時)

常総市水海道森下町にいる、コモন্ズの横田です。水海道有料橋入口から水海道二高の前を通る道の冠水が減ったようで、車が通りました。これで 354 号まで行ければ街中の移動がしやすくなります。これからあちこち見に行きます。

その⑤も、私的な思いが混ざり、活動もコモন্ズの決定事項にもなっていませんが、今見えつつあるニーズとやれたらと思っていることを書きます。いろいろなアドバイスもいただきながら、やるべきこと、やれることを決め、呼びかけられるようにしたいと思います。お気づきの点があればぜひお聞かせください。

9 月 12 日。本当は今日は中学校の運動会だった。でも町にいる人はごくわずか。

実際に電気もなく、携帯もつながらず、車で動けず、食事も水やトイレも制約を受ける生活にしていると、疲れが相当たまると感じる。自分は家で布団で寝られるから良いが、体育館の人は相当きついと思う。昨日水海道の避難所にファーストフードの会社の炊き出しが入ったとか。みんなが暖かいものを食べられたことを祈る。

水海道地区は 10 日の夜から翌日にかけて急に増水して、何も持たずに避難所に来ている人が多いと思う。水が引くまで家にも数日は帰れない。避難所にいる間、炊き出しや足湯、マッサージとかがあったら少しは楽になるのではと思うが、今日確認しにいく。

後はどのルートからまちに入ってもらうか、地図をつくらないと。市役所にも行かねば。

片付けるところは山ほどある。まず道路にたくさんの瓦礫やゴミがある。道路の真ん中にある車も移動させないと、他の車が通れない。

公共施設、特に病院や福祉施設、学校のニーズを調べようと思う。後は知人のブラジル関係のお店も手伝いたい。

個人宅、畳、濡れてダメになったもの、冷蔵庫の中のものなど大量に捨てるものが出てくる。それを入れる袋、雑巾、バケツが大量に必要な。マスク、タオルや雑巾など募るかどうか、見極めよう。ゴミ袋は、行政の指定の袋以外でも良いのか、聞かないといけない。

断水なので、掃除するにも水を汲んでこないといけない。水汲み用のポリバケツと荷車もあると助かるだろう。

みな家に戻り、大事なものが水に浸かった部屋で、とても辛いだろう。自分も事務所の中がどうなっているか、これから外国人児童生徒の学習支援のためのアフター・スクールを再開



しようとしていた時に、苦労して集めた教材がどうなっているか、と思うと不安だ。ボランティアには大事なものを失った人の気持ちを察して活動してほしい。

幸い私は、水海道で子ども会、PTA の役員をしてきたので、いろいろな人と連絡が取れる。教育委員会や学校、市役所にも知人がいる。そしてブラジルやフィリピンの仲間もいる。この災害から立ち直るプロセスで、私がずっと模索してきたこの地に多い外国からきた住民と地元の人との協力関係をつくりたい。それがコモন্ズらしい活動にもなると思う。

知人から個別のニーズを聞くことで、社協などに集まるボランティアに活動先を紹介したり、上記のようなものをコモন্ズでも募り、集められれば、それをまわりの人に配りながら、さらにボランティアのニーズを聞きだすこともできるかもしれない。コモন্ズ事務所前の水が引けば、大家さんは 2 階、3 階も貸してくれるというので、これらはできる。

あと、できればこれから 1、2 週間、いろいろなところでニーズを聞きに行き、人の送迎とか、炊き出しや足湯が必要な場合のコーディネート、資材や物資の運搬などを継続的にするチームをつくりたい。その中に、ブラジルやフィリピン・コミュニティの人も入れたいが、この人たちは仕事の代わりに頼むので、お金を払い仕事として活動してほしい。そのためにもコモন্ズでも資金を集める必要がある。

携帯代、あるいは無線機、発電機、照明器具など物品費：30～50 万

レンタカーか中古車を買うお金（軽トラも必要）：50～80 万
運転手やチームに入る人に払う人件費：8 千円×6 人×20 日＝約 100 万

コモন্ズとして、各種手続き、保険加入、記録、発信、経理も増えるので、最低 100 万はいる、と考えると少なくとも 300 万、できれば 500 万くらいの資金を集めたい。

お金だけでなく、上記資材の購入手続きやセッティングを手伝ってくれる人、私がした電話の内容を発信してくれる人、各ポイントの写真をとってきたり、それを WEB に掲載してくれるような人もほしい。

もちろん、これについてやるかどうか、理事会の同意も得る必要がある。まず再度情報を集め、計画を練る必要がある。

この地域を心配し、応援したいと言ってくれる人のためにも、これまで共に地域で暮らしてきた仲間のためにも、どこまでできるかわからないが、やってみよう。



その⑥(2015年9月12日(土))

自宅(水海道森下町)まわりの水位が下がっている。市内の状況を調べ、写真に記録することを目標に、息子が以前通学に使っていた自転車に乗って森下町、橋本町、新井木町、湊頭町、山田町、天満町、諏訪町そして市役所へ行く。八間堀川に近い橋本町、新井木町がかなり浸水している。

私の自宅はやや高いところにあり、市役所の方向に南下しようとする緩やかな下り坂になる。そして鬼怒川と小貝川をつないでいる「新八間堀川」(八間堀川とつながる川)に橋が3本かかっているが、2本の道は橋の北が池のようになっていて進めない。橋本町で出会ったPTA仲間によると、新八間堀川に流す水路の排水溝が閉まっていなかった状態で水位が上がったため、地下水路を通じて水が逆流し、急に出てしまったようだ。もともと低い土地で地下から水が溢れ、溜まる。それゆえ避難する間もなく車や家(ひどいところは1階天井まで)が水に浸かった。森下町で突然水が増えた原因はこれのようだ。その水を逃がすために、ポンプで水を川に流している。これで水が引くかどうか。

豊水橋につながる旧354号を超えて市役所に向かう。議事棟が避難所になっている。森下町の知人に会い、先程撮った写真を見せる。別のお年寄りに、自分の家も撮ってきてと頼まれる。みな自宅の状況が一番知りたい。市役所を出て、郵便局のある交差点を新井木方面に進む。きぬ医師会病院は中も泥だらけ。その先の新井木交差点は水没。

きぬ医師会病院の裏手に進むと、相野谷町の東にある田が湖のよう。その南にある新井木もかなり広く浸水し、水面に家や浮かんでいる。今日もたくさんのヘリが上空にいて、自衛隊のボートが行方不明者を探している。

そんな中、若い2人の男性に合う。家に残してきた犬を救うため、サンダルで水に入ろうとしていたので止める。自衛隊の船着き場に行き、住民をボートに乗せて、救助に行ってもらえるよう頼んだ。それが許されたのに、今度は若者がいない。仕方なく、堀に沿って進み294バイパスに出る。新井木交差点は低地だが、294バイパスを湊頭あたりまで上ってくると、既に水はない。大型スーパーの駐車場に、他市派遣の給水車があり、水をもらう。しかし誰も来ていない。自転車で水の袋を乗せ、バイパス沿いを進む。山田町でブラジルの方の経営する床屋さんがあり、荷物が出されていた。そこに水を置く。天満町、山田町も水が引いて間もないようで、帰って掃除をしている人は少なかった。帰ってきた人に給水車が来ていることを伝えたと、みな知らなかった。家を見てきて欲しい人の家を探し、写真を撮り市役所の避難所に行くと、頼んだ人がいない。

入口で、給水車の案内を市内に放送してほしいと窓口で話すと、しばらくして流れる。午前中市役所の電源にトラブルがあったのか。市の宣伝車も水没し、住民に伝える手段がないという。これが今回の災害を象徴している。高いところにバックアップ施設や非常電源を持たない中で、想定していない堤防決壊と、中心部での水の急増による市役所の水没、これで電源や車を使えなくなった市役所から十分な情報が出ず、外部からも入れない状態。これが9月10日から12日まで続いた。

市役所で日本財団の方と合流。各地から来たボランティアが、



市役所の片付けをされていた。対策室に行き、市長に情報が市民に伝わりにくいので、こちらでも大事な情報を流したいと話すと、ぜひやってほしいとのこと。自転車なら自由に動ける自分が足で情報を集め、口で会う人に伝える。原始的なことだが、しないよりは良い。早速、自分も知りたいゴミの収集がどうなるかなど確認。市民活動課などに立ち寄る。日本財団の方に車に乗せていただき、常総市災害ボランティア・センターを準備している場へ。全国から応援に来ているエキスパートの方、東日本大震災以来の方と再会。どのようにボランティアにセンターまで来てもらうかなどを話す。

NGOの方に依頼していた、水が出なくてもトイレを使えるようにするセットがたくさん届いた。ありがたい。これやマスク、そうきんなどを家に戻って作業する人に配りながら、ニーズ集めをすることにしよう。

その後、再度市役所に忘れ物を取りに行き、今日撮った写真データを広聴課に渡し、守谷へ。

そこでコモンズ・スタッフの大野や日本NPOセンターの方と話し、スタッフ宅でシャワーを借り、また水海道森下町へ送ってもらう。これで3泊目だ。だんだん生ゴミの臭いがしてくる。ゴミを出したい。

まちを歩くと、子供会やPTA仲間に出会う。車を何台もためにした人、新築の家がどうなったか避難所で心配する人、防げた浸水だと怒る人、話を聞くのが辛い、知っている人だから、互いに困っているから話せることがあると思う。泥が片付いたとしても、なんでこんな目に、という心の傷は残る。それを癒すには、仲間だと思える存在、関係が重要と思い、今後の活動のコンセプト、「誰かに助けてもらう」だけでなく「ともに助け合う」への想いが強まった。「一緒に」を意味するポルトガル語「juntos」を合い言葉にしたい。

一気に趣旨書や必要機材リストを考える。

電気も、水も、休める家もない(避難所は電気、トイレ、食事はあるが、狭いし気を使う。自宅は夜暗く寂しい、トイレが困る、その意味で、早く車で親戚の人のところに行った人は衣食住の面は良いが、自宅や市の情報が得にくい。)という生活状態と、大事にしていたものを失った悲しみ、これを多くの常総市民が今共有している。災害面ではピンチだか、バラバラだった地域の関係を変えられるチャンスだと考えたい。

その⑦(2015年9月13日(日))

朝、どれくらい水が引いたか見るが、水海道森下町の水はまだ残っていて、事務所に行く道はまだ深い。北水海道駅の反対側の相野谷に自宅があるという方と会い、このあたりの状況を話す。班長もしていて、状況がどうして見たいとのこと。その方の車に乗せてもらい、きぬ医師会病院の前まで一緒に行くが、まだ午前8時前で自衛隊も来ていない。市役所に行く。市長さんにまちの状況を伝えつつ、自衛隊に聞くと、今日から水没したままの地域のローラー作戦を自衛隊、消防、警察で分担して行うとのこと。その方のエリアは消防とのこと、消防担当の方に会い、事情を話す。相野谷町も世帯数が多いし、どこがどうなっているかまでは聞かれてもなかなか答えられないとのことだった。その方が、自宅で仕事に使っていたパソコンも持ち出せなかったとのこと。市役所から自宅まで送ってもらった際、私がサブで持っていたノートパソコン VAIO をお貸しした。相野谷のことに詳しいこの方とは連携したい。

家族の避難先である親戚の人が家に迎えに来てくれたので、親戚の家へ。風呂を借り、溜まった洗濯物を預ける。義理の両親や子どもたちも元気だ。安心する。子どもをどのようにつくばの高校へ通わせるか、私と妻と義理の父の車をどうするか、床上に泥を被った妻の実家の片付けをどうするかなど、30分くらい話し、また中妻へ送ってもらう。そして企画書をまとめる。

県外から新たに來られた方とも会い、ボランティア・センターにいた方に、社会福祉協議会の災害ボランティア・センターとも連携しつつ、私が水海道地区でやろう思うことや、これから集めたい資料について説明。

昼に自宅に送ってもらう。神戸の村井さんが来て下っていて、これまでの状況を説明。住民同士がともに活動したり、お茶を飲みながら話すのは良いよと言われ、ほっとした。皆がこのような災害で、どれくらい保障があるのか考えていると思うし、森下町や橋本町は新築が増えていたから、二重ローンの問題もあると相談したら、詳しい弁護士の方を教えてください。地元の弁護士会などにも依頼して、相談会をすればとのアドバイス。これも企画しよう。

ちょうど私たちが読みたい本と「負けない象」を一箱くださった。そのとき私の家族が、隣の妻の実家の畳を外に出しに來たので、村井さんたちも手伝ってくださった。本当に助かった。

妻の父の車は庭に乗り上げて停めていたので、エンジンがかかった。畳と一部の家具がだめだが、どうせならフローリングに変えれば、ベッドも置ける。我が家にもハウス・メーカーの方が来る。床下を見るところを教えてください。水がどれくらい残っているか見てほしいとのこと。

みな帰られた後、eメールを書くとするが、主に使っているパソコンがOSトラブルで立ち上がらない。ノートパソコンのVAIOが4つもあって、先に貸したのを除く3台があっても、どれもiPhoneの無線LANにつながらない。編集用に買ってあったmacで試したら、ネットが見れた。でも午後5時近くなり、外を見に行こうと外出。すると、朝あった道路の水がない。自転車は2台ともパンクしたので、ゴミ袋と飲みものをバッグに入れて、まちを歩いて見に行く。会う人にゴミ袋を分け、ゴミの回収のことを伝える。まだ5ヵ所くらいしか人は来ていなかった。作業した方は引きあげたようだ。コモンズ事務所前も水はなく、入るといろいろなものがひっくり返り、冷蔵庫が机の上、子どもたちのアフター・スクールやサマー・スクールの教室が泥だらけ。たくさんあった教材も、日本語テキストも。進路ガイドもみな水に浸かった。奥のデスクも、買ったばかりのプリンターも、パソコンもだめだ。これまで5年間外国人支援でやってきた資料をまとめた箱の棚も、半分以上のところまで濡れている。でも良い。これならやりなおせる。自宅の方に比べれば、なんとでもなる。でもいつか、ここで子どもたちのスクールや僕が毎週行っていた日本語教室を再開したい。

相野谷地区も見に行かなければと、線路を超えて入る。朝

会った方の家を探すが、なかなか見つからない。一通り歩くが、住宅地の真ん中では水が膝くらいまで残っている。奥の通りは通れる。その先の田んぼは海。ここの水が引かないと、浄水場が動かず、水が出ない。日が落ちた。新井木まで行き、借りていたコンテナ倉庫を開ける。ここも水が入ったが、コモンズのファイルはまだ生きている。ここに置いて良かった。橋本町の水も引いている。

市役所へ行き、避難所にいる近所の人のところへ。両親は家を見に行っているという娘さんに説明する。うちの子の同窓生だ。もう少しで家に行けると話す。広報課の知人に、今日撮った写真のデータを渡す。14日から災害FMを立ち上げるそうだ。ラジオがあれば、それを皆に渡して、それで細かい情報をどんどん流せるかもしれない。今日も無線で流れたのは、床上の人に消毒薬を配ること、学校が水曜日から始まること、大型の処分したいものの持ち込み先はここ（既にいっぱい。ゴミを持って行く場が課題だ）というくらい。もっと細かい情報を流すメディアがないと、被災地の中では何もわからない。これも皆の悩みだ。FMが聴けるラジオ、単3電池もたくさん欲しい。私の持っていた手回し充電もできる小型ラジオを、諏訪に住んでいたというブラジルの方に渡しつつ、「juntos プロジェクト」のことを話す。持って來たドリンク剤を渡し、頑張ろうと話す。市民協働課にも寄り、今回の災害でブラジル人と日本人の関係が悪くなる事態は避けよう、そのためにも juntos の方法でやりたいと話す。理解してくれた。ありがたい。昨日に比べ、東日本大震災時に私たちが集めて、いわきに送ったような支援物資がだいぶ増えた。自分も被災者ということで、パンやジュースをもらい、バッグに入れる。

この地区指定の燃やせるゴミの袋も大量に必要なが、市役所には在庫がない。多分周辺の店にもないだろう。困った。昨日から唯一空いているツルハドラッグで業務用ゴミ袋を買う。先月まで毎週日本語を教えていたブラジル人の親子に会う。知人宅に避難しているそうだ。

もう午後8時だが、避難所を見ておきたいので、3月まで自分の子が通った水海道小学校へ。体育館の人はそれほど多くはなかった。ブラジルの知人家族が2組。家は大丈夫だったそうだ。職員室に行くと、先生が二人泊まり込みとのこと。聞いたら、多いときは700名もいたそうだ。外部から物資が来ないから、学校で炊き出しをしようと米を炊いたそうだ。おにぎり1個の理由がわかった。先生方も自分のところもやられているのに、本当に頭が下がる。

コモンズのプロジェクトを話し、隣の福祉会館へ顔を出し、社会福祉協議会の人と話す。しばらく電話が通じず、大変だったようだ。14日からの社協の災害ボランティア・センターがうまくスタートしてほしい。一番恐いのは、やっと水が引いて自宅に戻ろうとしている水海道地区に、ボランティアの車が入り込んだり、道を聞いたり、そんなことにならないでほしい。守谷からなら294号で北上せず、玉台橋を渡り、鬼怒川の西を北上して美妻橋を渡って中妻に行してほしい。水海道の街中には絶対に入って欲しくない。これからボランティアの体制をつくるので、まず市街地を避けて中妻に行してほしい。これから車のレッカーなどするのに、車が入ってくると道路が動かなくなる。個人宅の悲惨な状況を見物しに来てほしくない。

結構重い荷物が入ったバッグを持ちながら、また徒歩で真っ暗な道を帰る。やっと橋本町の橋が渡れた。水没していた家々の前に、たくさんのもんが出されている。

家に着く。やるべきことは見えた。火曜日にコモンズ常総事務所の掃除をして、掃除道具や機材を入れる状況を整え、2階にスタッフ・ルームをつくる。発電機と無線が使えれば、ここを拠点に高圧洗浄機や荷車、軽トラなどあちこちに行ける。月曜日は火曜日に行うコモンズ常総事務所の片付けの準備をしよう。後はチームづくりだ。学校のニーズも急いで聞いてこよう。

とりあえずここまで。やるべきことは見えた気がする。

いばらき未来基金で、「Juntos(一緒に)」募金を開始!

これから様々な方たちの支援活動が必要となってきます。生活物資が足りない方、自宅が浸水したり、流された方はもちろんのこと、高齢の方や障がいのある方、小さなお子さんを抱えた方、また常総市に特に多い在住外国人の方など、災害時要援護者への支援が必要です。

そこで、いばらき未来基金では、常総地域の被害被災者支援活動への「Juntos(一緒に)」募金を開始しました。常総市は、ブラジル人やフィリピン人が数多く住む地域です。ポルトガル

語で「juntos」(ジュントスと発音します)は、一緒に、を意味します。

外国人も日本人も、高齢者も子どもも、障がいのある方もない方も、常総市出身の方もそうでない方も、みんなでこの常総地域を一つになって支える、そのかけはしになれば、という想いで募金を行い、被災された方々を支える活動に活かしていきたいと思っています。

みなさまの温かいご支援、よろしくお願いします。Juntos!

インターネットによるオンライン寄付

インターネットで、クレジット・カードやコンビニ決済などで、24 時間ご寄付できます。「常総地域被害被災者支援活動」を選択してください。詳細はウェブサイトをご覧ください。

< <https://bokinchan2.com/ibaraki-mirai/theme1/bokin/page1.php> >

ゆうちょ銀行の口座へのお振込み

番号: 00110-3-263714

名称: NPO センター・コモンス いばらき未来基金

※ 「Juntos 募金」とご指定ください。郵便振替の払込取扱票の通信欄に、「Juntos 募金」とご記入ください。

銀行口座へのお振込み

常陽銀行 本店営業部 普通 3637778

「認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンス いばらき未来基金」

※ ただし銀行へのお振込の場合は、ご本人様確認ができませんので、e メールまたはお電話で、お名前、ご住所をお知らせください。

☎: 029-300-4321 e メール: office@ibaraki-mirai.org

多くのご支援が集まっています!

9月12日より受付を開始した「Juntos 募金」ですが、14日朝時点で40件を超える多くのご寄付をいただいております。これまでつながりのある方や団体、初めての方、常総市と縁のある方、また遠く韓国からも応援をいただきました。本当に心強く、またこの皆様のご意志を、しっかりと支援活動に結びつけなければ、という想いです。

紙幅の関係で全員分掲載できないのが残念ですが、いただいた温かいメッセージを下記にご紹介します。また、ぜひお知り合いの方にも Juntos 募金をご案内いただければ幸いです。

「僅かですが、常総市の被害被災者支援活動費にお使いいただければ幸いです。横田様はじめ被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。」

「つくばみらい市(旧谷和原村)出身です。高校は水海道一高でした。今回の水害は他人事ではなく、実家も避難勧告が出ましたが無事でした。ニュースではなかなかわからない現地の状況を検索していたところ、ウェブサイトにてたどり着きました。大変な状況の中、詳しい現状をお知らせくださってありがとうございました。被災された方々、避難所で不自由な思いをされ

ている方々へ、ほんの少しですがお役に立てれば幸いです。」

「筑波大学の卒業生です。連日の報道で学生時代に訪れたことがある場所、知っている地名をたくさん耳にし、現地に赴いて直接のお力になれないことを心苦しく、もどかしく思っています。微力ながら、募金という形で支援させていただきます。災害に負けず、前を向いて頑張ってください。」

「常総市は私の生まれ育った町です。少ししか力になれませんが、役立てて頂ければ幸いです。」

「茨城県は出身地ですが、今回の水害に対して直接お手伝いすることができません。水害で大変な思いをしている方たちの支援のために使っていただけると幸いです。」

「この度の水害、心よりお見舞い申し上げます。また、被災されながらもいち早く支援活動に向けて動かれているコモンスのみなさんに心より敬服するとともに、ねぎらい申し上げます。甚だ些少ですが応援の気持ちを寄せさせていただきます。1日も早い復旧を願っております。」

「基金によって集まった全国からの市民の気持ちが、被災された方々に届き、少しでも前を向くことができますように。よろしくお願いします。」

発行: 認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンス

(本部)

〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号

茨城県労働福祉会館2階

☎: 029-300-4321 FAX: 029-300-4320

eメール: info@npocommons.org

ウェブサイト: www.npocommons.org

(大工町事務所)

〒310-0031

茨城県水戸市大工町1-2-3 トモスミとビル4階C1

☎: 029-291-8990 FAX: 029-291-8991

ツイッター: @NPO_Commons